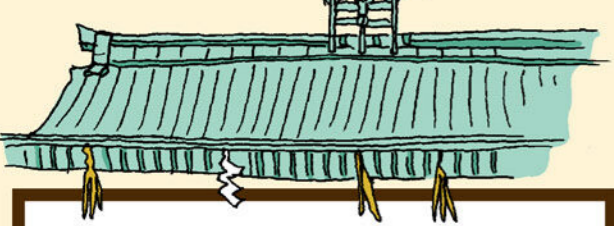


懐かしくて新しい 石切劔箭神社御本社

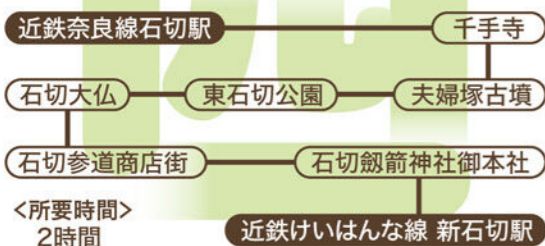


東大阪散策MAP

古地図研究家・本渡章さんと『河内名所図会』を歩く

石切劔箭神社御本社

コース①



石切劔箭神社

石切神社、「石切さん」の通称で親しまれる石切劔箭神社のはじまりは2000年以上前。神武天皇の時代に生駒山中に祀られ、後に大阪平野を見下ろす山麓に移って歴史を重ねてきました。幕末以降は石を切るほどの霊力を持つ劔と箭という意味の社名により腫れ物を治す神としての信仰が高まり*1、多くの参拝客から「でんぼの神さん」として親しまれてきました。御本社はお百度参りが有名で、日々お百度を踏む人が絶えません。夏祭りも盛大で、参道商店街は新旧の店々が賑わい、名物の占いも人気。石切駅との間には古寺、古墳群、大阪平野が一望できる公園も。懐かしくて新しい魅力がいっぱいの石切さんウォークをマップ片手にお楽しみください。

*1『角川日本地名大辞典27大阪府』の「石切劔箭神社」より



石切参道商店街

① 役行者・弘法大師・在原業平ゆかりの千手寺

昔、弘法大師が夢で善女竜王から観音が住む山の香木を与えられ、夢がさめても消えなかったことから千手観音の像を彫り、本尊としたのが寺の名の由来。もとは奈良時代に役行者が不思議な光に導かれ、当地で神々と出会ったのを機に創建したのが寺の起源と伝わる。一時、戦いで焼失したが、本尊の千手観音は深野池(かつて河内にあった巨大池)に逃れ、夜な夜な光を放っていたのだとか。それを見た歌人の在原業平(ありわらのなりひら)から時の帝に話が伝わり、新たな堂舎が建立された。水を支配する善女竜王を祀ることから雨乞い祈願の寺にもなり、境内の裏に弁天塚古墳が残るなど、数々の逸話に彩られた千手寺。河内西国霊場十番札所、河内名所図会にも紹介。



石切劔箭神社本殿のすぐ左側に御神木である樹高約15メートルのクスノキが聳える。東大阪市の指定天然記念物

本殿の後ろに控える総積(ぼづみ)殿は、祭神の饒速日尊を祖とする物部(ものべ)氏の一族の総積氏にちなむ。石切神社の祭神は木積(こづみ)氏が代々務めているが、この木積の姓は総積から転じたもの

横穴式石室がぼっかり。思わずのぞいてしまう

② 円墳が2つ並んで夫婦塚古墳

上石切町1〜2丁目から東石切町3丁目にまたがって広がる古墳時代後期(6〜7世紀頃)の横穴式石室を持つ古墳群は、神並(こうなみ)古墳群と呼ばれている。神並は石切一帯の古い地名で、神が降りてきた地をあらわす古語の神南備(かんなび)に由来するとされ、石切神社の祭神で天磐船(あめのいわふね)に乗って天から降りてきた饒速日尊(にぎはやひのみこと)の伝承にも通じている*2。現存する古墳のひとつ、夫婦塚古墳(神並5号古墳)は住宅地にあり、ぼっかり穴をあけた横穴式石室を間近に見ることができる。円形を2つ合わせた双円墳の珍しい実例でもあり、市の指定文化財。解説板には出土した馬や犬の形の壺装飾の写真が載っていて、見応え十分。

*2『角川日本地名大辞典27大阪府』の「神並(東大阪市)」より



石切大仏

③ ちょっと一息、東石切公園

近鉄石切駅徒歩10分ほどのアクセス良好な立地ながら、大阪平野を一望できるスポットとして密かな人気を集める公園。季節ごとに桜や紅葉を楽しむことができ、煌めく夜景の評判も高いのだとか。広々とした芝生や大きな滑り台などの遊び場があるのも、家族連れには嬉しいポイント。ポケモンマンホール「ポケふた」も探そう。



千手寺前の石碑は在原業平ゆかりの地のし

スカイテラスからは大阪平野の絶景が望める。日帰り温泉もオススメ

河内名所図会の石切さん、和みの風景

江戸時代の石切劔箭神社・御本社には神並村ののどかな風景の中にありました。田畑と池と樹木の間には続く参道を抜け、鳥居の前に立つと正面に広い境内、その奥に本殿と摂社、末社が見えます。左手前には水神社の池。右下に「在中」とあるのは村の集落のこと。石切さんは神並村をはじめ四つの村々の守り神でした。右に見える正興寺は黄檗宗の寺。後ろの圓山(まるやま)はかつての古墳といわれていますが、昭和時代にはなくなり、江戸時代には絵のとおりを重ねた美しい丘で、村人の目を楽しませたことでしょう。



千手寺 木造千手観音立像



ボランティアガイドの川向さんからひと言

石切さんのお百度は戦後盛んになり、参道の商店街は昭和30年代からどんどん立派になって、新しい店も増えていきました。

④ 石切参道商店街

近鉄石切駅から石切劔箭神社までおよそ1kmの参道に食堂、お菓子、土産物、漢方薬、衣料品、雑貨、ギャラリー、占いなどびっしり並んだお店の数々。看板、店構えもさまざま、歩いて楽しい坂道だ。ここではそんな参道商店街で注目のスポットをご紹介します。

☑ 河内木綿 はたおり工房

河内平野の風土と、大和川の付替えから始まる歴史が育んだ「河内木綿」の綿繰り糸つむぎ、はた織の体験ができる工房。糸が太く丈夫なのが特長の本綿は、ぜひ一度手にしてみたい逸品だ。

☎072-987-0189 10:00〜15:00(要連絡)水・土曜日

☑ 梅月堂

山菜おこわ、栗入り赤飯、みたらし団子や五平餅などが人気の和菓子店。購入した和菓子は店前の休憩所でゆっくり味わうこともできるのが嬉しい。名物の石切タルトやよもぎ団子はお参りのお伴にもぴったり。

☎072-985-3272 8:00〜17:00 不定休

☑ 石切ひろうす工房

昭和38年創業、ひろうす(がんもどき)、豆腐、厚揚げなどを手作りで提供する。看板商品のひろうすは、銀杏、しいたけ、キクラゲ、人参、ごぼう、つくね芋などの具材が詰まった人気の参道土産。

☎072-981-3265 9:00〜17:00 不定休

☑ 大和屋

「元祖よもぎうどん」でお馴染み、昭和より三代続く老舗。看板のよもぎうどん、よもぎのてんぷらは参拝客に長く親しまれてきた名店の味だが、おでんのジャガイモも負けず劣らずの人気メニューだ。どちらもぜひ。

☎072-981-2939 9:00〜16:30 無休

☑ 明石焼き たこつぼ

はちまきを巻いたタコの看板が目印の人気店。同商店街の「石切海鮮市場おか本」から仕入れたタコを使った明石焼きは優しい味わい。出汁の入ったポップな「たこつぼ」陶器は、写真映えするとつばらの評判だとか。

☎072-982-1390 9:00〜14:30 不定休

☑ 石切回廊

2022年にオープンした「健康と癒し」がテーマの商業施設。鳥居前の好立地にあり、特産スイーツやスムージーなどの食を楽しむことができる。フリースペースや屋外広場も備え、お百度参りの前の休憩にも◎。

☎072-975-6987 10:00〜16:30 無休

⑤ 石切劔箭神社御本社

◆祭神は天照大神の子孫 饒速日尊(にぎはやひのみこと)とその子、可美真手命(うましまでのみこと)を祀る。饒速日尊は天照大神より十種(とくさ)の神宝(かんだから)を授かり、大和建国のために生駒山に降り立たとされる神。

◆神話の石を祀る神武社

神武天皇は大和の国をひらくための戦いに臨み、当地で諸神を祀った。さらにかたわらにあった巨石を踏ると高く飛び去り、勝利の予言を得たという。ここにその石が祀られ、訪れる人を神話の世界へと誘っている。

◆お百度の名所

石切さんは全国に名高いお百度

参りの名所。御本社の境内を多くの参拝客が輪を描き、黙々と歩き続ける光景はほかでは見られず、メディアで度々紹介されてきた。1周したらお百度ひもを1本の神宝(かんだから)を授かり、大和建国のために生駒山に降り立たとされる神。

◆通称、でんぼの神さん

石切劔箭とは岩を切り裂く劔、つらぬく矢をあらわす。腫れ物を治す神、「でんぼの神さん」とも呼ばれている。でんぼは腫れ物の意味だが、石切さんでは霊力で人を癒す加持祈禱(かじきとう)の伝法をさし、崇敬されてきた。

◆神木のクスノキは天然記念物

本殿の脇で隆々と枝を張るクスノキは樹齢およそ500年、高さ15m。東大阪市の天然記念物に指定された大木で、太いめ縄が巻かれている。

◆水神社、祈り亀に願いをこめて

水神社の池では昔、亀の甲羅に名前と年齢を書いて放ち、願い事をする風習があったのだとか。今はかわいい祈り亀のお腹に願い事を書いた紙を入れ、御本殿東側にある祠の前の神霊池に放つものとなっている。祭神は罔象女神(みつはのめのかみ)と天水女神(あめのみくまりのかみ)。どちらも雨乞い祈願に霊驗ありとされた水の神だ。

◆絵馬殿

本殿参拝の後は、絵馬殿へ。屋根の上に高く掲げた劔と矢を仰ぐと、石切劔箭神社にきたのを実感。それぞれ劔と矢をたずさえた両脇の随神像は、石切さんならではの光景だ。

生駒山麓の
深くやさしい自然の中で



東大阪散策MAP

古地図研究家・本渡章さんと『河内名所図会』を歩く

石切劔箭神社 上之社

コース②

- 近鉄奈良線石切駅
 - 爪切地藏・大師堂
 - 石切劔箭神社上之社 (八代龍王社・お礼亀・婦道神社・境内の森)
 - 辻子谷の復元水車・石仏群
 - 興法寺
- <所要時間>2時間30分



石切劔箭神社の奥宮である上之社は、石切さんの発祥にまつわる言い伝えを大事に守ってきました。石切駅から続く生駒山の坂を登って、緑濃い樹林に囲まれた境内へ。ふだんは参拝者を静かに見守る上之社ですが、秋の大祭では、祭神の饒速日尊、可美真手命の勇しく力強い御魂にふさわしく、お祭りの太鼓台が坂を駆け上がる活気にあふれた風景が見られます。上之社から続く山道には弘法大師の足跡、谷あいの水車郷と石仏群、桜名所の古寺もあり、見どころは豊富。標高がだんだんと高くなるにつれ、目にする草花も変わります。山の自然に触れながら歩いてみたいコースです。

①石に彫られた爪切地藏堂

辻子谷の登り口にある爪切地藏堂。中をのそくと大きな石があり、地藏菩薩の姿が彫られている。よく見ると、冥府の裁判官をつとめる十王のうちの大王2体の像も両脇に。いずれも弘法大師が一夜のうちに爪で彫ったと伝えられているが、作成は室町時代とのこと。地藏は冥府の閻魔大王の化身で、地獄から極楽へ往生させてくれる救い主とされ、広く信仰されていた。それがいつしか弘法大師の人氣や、爪切地藏の伝承を生み出したのかもしれない。

②石切劔箭神社上之社

石切劔箭神社は生駒山の山頂近くに饒速日尊(にはやひのみこと)を祀ったのが、そもそもの始まり。時代はまだ紀元前、神武天皇が即位した次の年にさかのぼるとされ、発祥地は宮山と呼ばれていた。また、これが上之社の起源でもある。4世紀前半の崇神天皇の時代に、饒速日尊の子の可美真手命(うましまでのみこと)を祀る下之社(現御本社)が誕生。その後宮山の神が、現在の上之社のある光堂山にうつり、上之社・下之社をあわせて石切劔箭神社二座と呼ぶようになった*3。上之社は明治時代に政府の政策で下之社に合祀されたものの、昭和47年(1972)に再興している。石切さんの奥宮として、足を延ばしてお参りする人は今も絶えない。

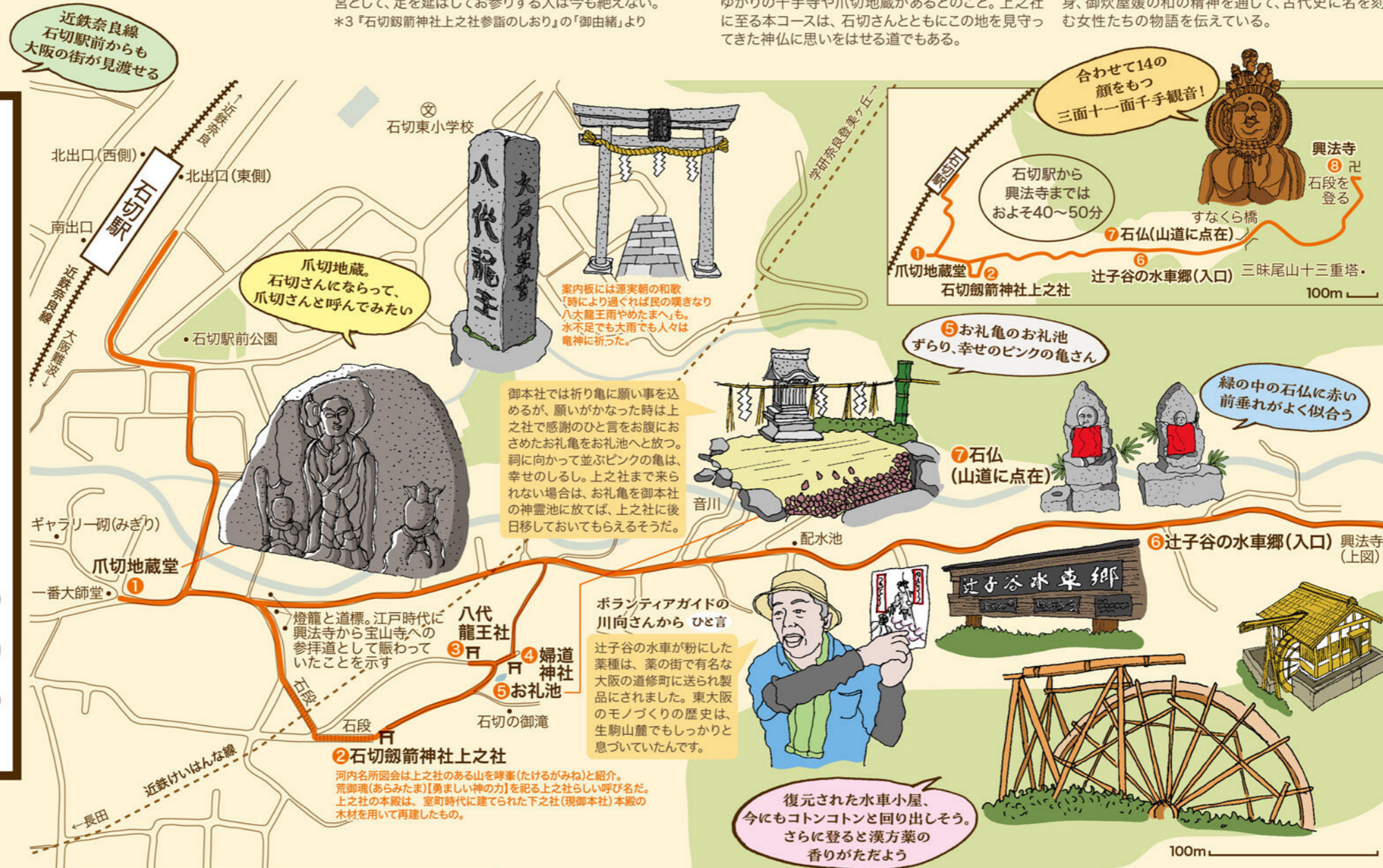
*3『石切劔箭神社上之社参詣のしおり』の「御由緒」より

③命の水をつかさどる八代龍王社

龍は稲作に欠かせない水をつかさどる神として古くから信仰を集めてきた。上之社に祀られた由来は不明ではあるものの、日照りの時は雨を降らせ、大雨の時は晴れさせる靈力を求められたのに応えて龍王の社が建てられたのは、相当に古い時代のことと思われる。日本各地に八代龍王を祀る社寺があるが、上之社のように「八代龍王」と呼んでいるのも珍しく、由来はやはり謎。境内の案内によれば、他の八代龍王を祀る社寺が役行者や弘法大師と縁が深いのと同時に、上之社のまわりにも役行者、弘法大師ゆかりの千手寺や爪切地藏があるとのこと。上之社に至る本コースは、石切さんとともにこの地を見守ってきた神仏に思いをはせる道でもある。

④婦道神社と神話に名を残す女性たち

御祭神は弟橘姫命(おとたちばなひめのみこと)、御炊屋媛(みかきやひめ)。弟橘姫命は日本武尊(やまとたけるのみこと)の妻で、穂積氏の祖・忍山宿禰(おしやまのすくね)の娘。日本武尊が東国平定に向かう船が嵐にあり、弟橘姫命がわが身を海に投げうって鎮めた逸話で知られている。御炊屋媛は石切さんの御祭神の可美真手命の母で、河内と大和一帯を治めていた長髓彦(ながすねひこ)の妹。天から降りてきた饒速日尊と長髓彦が争わず、力を合わせて国造りできるように務めた。婦道神社は弟橘姫命の献身、御炊屋媛の和の精神を通して、古代史に名を刻む女性たちの物語を伝えている。



石切劔箭神社(御本社・上之社)年間スケジュール

12月31日	11月23日	10月21日	10月7日	10月2日	8月24日	7月下旬	7月2日	6月30日	6月2日	5月2日	4月15日	4月3日	1月3日	1月1日
大晦神火祭・年越大祓式	新穀感謝祭(新嘗祭)	秋季大祭・宝物館一般公開	婦道神社例祭(上之社)	乾明神社例祭	穂積地藏祭	夏季大祭	水神社例祭	夏越大祓式	八代龍王社例祭(上之社)	五社神社例祭	春季大祭・宝物館一般公開	神武社例祭	元始祭	歳旦祭

主な年中行事

⑥よみがえった辻子谷の水車郷

谷筋の急流を生かした水車は、古くからの辻子谷の名物。江戸時代には胡粉(ごふん)や薬種づくりの需要を受け、その数を急増させた。胡粉は白色の顔料、薬種は漢方薬の原料で、昭和9年(1934)頃には辻子谷の音川流域に45台もの水車がはたらき、最盛期を迎えたという。その後、電動機の発達で姿を消したものの、平成16年(2004)には原寸大の復元水車が復元された。同21年(2009)には水路や小池、遊歩道とともに辻子谷水車郷が府の大阪ミュージアムに認定された。直径6mの復元水車は薬製造工場の横にあり、今も薬種の香りがする。生駒山麓を流れる水音が聞こえてきそう。

⑦谷あいの坂道で石仏と出会う

一番大師堂から東へ、興法寺への山道を登ってゆけば、やがて石仏群が現れてくる。坂が続く道の脇、木陰や草むらに2体ひと組でたたずむ石仏の様子は、まるで道行く人をむかし話の世界へと誘うよう。四国八十八箇所霊場の本尊と弘法大師を彫って道沿いに点々と連なる風景は、明治時代にできたもの。歳月を経て苔むし、丸みが出てきた石仏はひとつひとつ顔が違い、座像もあれば立像もあり、手にしているもの、前垂れの色も異なる。見比べている間に、どんどん高度が上がり、気づけば興法寺に到着だ。ミニ四国八十八ヶ所とも言えるハイキングである。

⑧興法寺

興法寺は役行者(えんのぎょうじゃ)がひらき、行基や婆羅門(ばらもん)僧正が住み、弘法大師が修行したと伝わる古刹。兵火でたびたび焼失したものの16世紀後半に再興され、江戸時代に隆盛を誇った。本尊の三面十一面千手観音は、寺伝で聖武天皇・行基・婆羅門僧正の合作の木彫りとされ、十一面観音の本面の左右にさらに2つの顔がある珍しいもの。10世紀の仏像で、府の指定有形文化財でもある(『石切小学校100周年記念誌 石切の歴史の足あと』より)。境内には神武天皇が雨宿りしたといわれる枝垂(しだれ)桜が、時雨(しぐれ)桜と洒落た呼び名で残されているのも、歴史の厚みを感じさせる。

『河内名所図会』に描かれた 鷲尾山興法寺

標高400m、生駒山上近くに建つ興法寺を江戸時代の絵師が描くと、山腹を登る石段が主役のこんな桜の風景に。左上の本堂がゴールで参道は2km以上にわたって室町時代に桜の並木が植えられ、絶好の花見の名所になりました。鷲尾山は山号ですが、古くは鷲仙寺と呼ばれ、興法寺と名をあらためたのは江戸時代の1680年頃とのこと。当時すでに寺は、辻子谷を通って生駒山を越えていく人々が必ず立ち寄り、お参りしたといえます。今でも境内は山の木立に抱かれてあり、春は桜、秋は紅葉が美しく、澄んだ空気とともに楽しめるのは絵の風景からも想像できるでしょう。



本渡章(ほんど・あきら)
作家・古地図コレクター。編集者などを経て文筆業に。1996年、第3回バスカル短篇文学新人賞優秀賞受賞。著書『大阪古地図パラダイス』『古地図で歩く大阪ザ・ベスト10』『鳥瞰図!』『古地図でたどる 大阪24区の履歴書』(以上、140B)や『古地図が語る大災害』(創元社)など。他に各地の「名所むかし案内」シリーズなど多数。講演、まち歩きツアー、自ら所蔵する古地図を公開するサロンなどの活動も行っている。

監修/本渡章 編集/株式会社140B
イラスト・デザイン/神谷利男デザイン株式会社
発行/東大阪観光協会 2025年1月